グラウンドワーク三島
ボランタリーニュース
Ｎｏ.74　2021 年（令和３年５月 31 日発行）

発行　特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857　静岡県三島市芝本町 6－2
TEL 055(983)0136　FAX 055(973)0022
URL http://www.gwmishima.jp/
E-mail：info@gwmishima.jp

グラウンドワークとは・・・・・・・
市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
（文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。）

川勝平太静岡県知事・難波喬司静岡県副知事に3賞受賞報告

▲前列左より：越沼正源兵衛川を愛する会会長　瀬川元治松毛三日月会会長　白井幸太郎中郷用水土地改良区前理事長　川勝平太静岡県知事　小松幸子ＧＷ三島理事長　小畑茂雄松毛三日月会副会長　山口東司ＧＷ三島インストラクター　後列左より：美和将弘ＧＷ三島事務局　渡辺豊博ＧＷ三島専務理事

ＧＷ三島は３月 12 日、川勝平太静岡県知事と難波喬司静岡県副知事を表敬訪問し、３賞の受賞報告をした。「アジア都市景観賞」「インフラメンテナンス大賞・優秀賞」に加え、「中部の未来創造大賞・大賞」を受賞したばかりのことであった。

「中部の未来創造大賞」は、愛知・岐阜・三重・静岡・長野県の幅広い活動を紹介することで、中部の地域づくりに役立てていこうとするもの。今回、ＧＷ三島は、「ふるさとの森を守れ！松毛川千年の森・再生プロジェクト」で最高賞の「大賞」をいただくことができた。（この表彰式は、３月９日に静岡市内で執り行われた。）

川勝知事からは「数々の受賞は見事です。静岡県と三島市の魅力とまちづくりの先進的な手法を国内外に際立って宣伝していただき感謝するとともに、現場最前線で頑張る皆様の努力に敬意を表します」とお祝いと激励のお言葉があった。また、出席者が語るそれぞれの活動への思いに耳を傾けてくださり、一同とても嬉しく感じ入った。

難波副知事からも、心のこもったお祝いの言葉をいただき、一同は、これからの活動について大変励まされた。

今後の取り組みについて渡辺豊博専務理事は「源兵衛川や楽寿園、白滝公園、柿田川、清住緑地など富士山周辺の湧水地を水の文化・ネットワークとして富士山の世界文化遺産に追加登録する運動を展開します」と説明し、大賛同をいただいた。水と緑の自然環境を守り続けることが、「水の都・三島」の確固たる未来・方向性だと確信した瞬間でもあった。今後も現場を大切にし、市民活動を創造的に進めていく。

中部の未来創造大賞「大賞」受賞 豊岡武士三島市長に報告

先の２賞は１月 14 日に市長に報告済みだったが、その後の「第 24 回・中部の未来創造大賞」の「大賞」受賞報告のため、３月 25 日、ＧＷ三島の関係者で三島市役所に豊岡武士市長を表敬訪問し、改めて、受賞へのお祝いの言葉をいただいた。

出来上がった幟に並ぶ文字が、ＧＷ三島の活動への意気込みと決意を表している。これからも、ふるさとの森を守るために、実践地での取り組みを続けていく。

ふるさとの森を守れ！「松毛川千年の森シンポジウム」

3 月 27 日。三島市民生涯学習センター3 階講義室で「松毛川千年の森シンポジウム」を開催した。

基調講演「松毛川千年の森・再生プロジェクトの経過と今後の取り組み」（渡辺豊博ＧＷ三島専務理事、都留文科大学特任教授）に続き、話題提供①「鳥類たちの魅力」（滝道雄日本野鳥の会東富士副代表）、②「松毛川のトンボ類とその特徴」（加須屋真常葉大学非常勤講師）、③「植生と植物から見る松毛川の自然」（菅原久夫富士山自然誌研究会会長）が映像を示して述べ、最後は意見交換会「松毛川の自然環境の保全と活用の方向性とは」を実施。

これらの「自然の宝物」を傷付けることなく、付加価値をあげて次世代に引き継いでいく社会的意義と意味を、科学的な貴重性を含めて強く実感させられるシンポジウムになった。

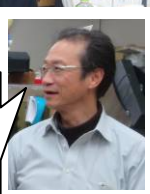
グラウンドワーク三島の理事会・評議員会の合同会議開催

3 月 27 日、「松毛川千年の森シンポジウム」終了後、理事会・評議員会の合同会議をＧＷ三島事務所で開催。そこでは、次年度に向けた新たな戦略やアクションプランについて活発な議論が行われた。また、都留文科大学を 3 月末で退任する渡辺豊博専務理事に、皆から厳選した贈り物を贈呈した。

渡辺専務理事は、次のように決意を語った。「張り切って、ますます挑戦的で革新的な『三島磨き』や、『ＮＰＯ経営』に取り組んでいきます。ご参加の皆様や、ズームで参加の役員や所用で参加できなかった方々を含め、温かな支援の心が闘いの原動力になります。今後とも、多くの仲間とともに、社会を切り拓くドキドキを発信していきます」。

一同、マスクをとって記念撮影

▲都留文科大学を間もなく退任する渡辺専務理事に、皆からプレゼントを贈呈



所用で、少し遅れての参加となった室伏強評議員

ZOOM で参加
・松下重雄理事
・高橋邦明監事
・林丈雄評議員

記念撮影担当の高波大輔事務局員

受賞・おめでとう！
渡辺豊博専務理事
「第8回プラチナ・ギルド・アワード」

3 月 23 日、アクティブシニアの社会貢献活動を表彰する「第 8 回プラチナ・ギルド・アワード」（認定ＮＰＯ法人プラチナ・ギルドの会・理事長：奥山俊一）の授賞式が東京都品川区の（株）日本総合研究所で開催され、渡辺豊博専務理事が出席。来賓は、堀田力さわやか福祉財団会長。

受賞者紹介で「58 歳で県庁職員から大学教授に転進した後も、グラウンドワーク三島の活動を活用したインターンシップをはじめ、源兵衛川の水辺再生など、多くの地域創生活動に携わっており、豊富な経験知、先進的発想、市民総参加型の組織運営力等々は、凄い！の一語に尽きる」と講評された渡辺専務理事は、「他の受賞者の献身的な社会活動も学び、人は人が支えていくことの大切さと効果を実感した。『議論よりアクション』をベースに今後も頑張る」と語った。

「壊れていく森を救え！」
荒廃・消滅の危機が迫るふるさとの森
原風景を守りたい、
松毛川千年の森再生プロジェクト！
クラウドファンディング　目標金額：500 万円

2003 年以来、ＧＷ三島では 18 年間にわたり、松毛川千年の森づくりとして、放置竹林の伐採、植林、ホテイアオイの除去、ゴミの除去、トラスト運動による河畔林の買収など、地域協働による森づくりや環境再生保全活動に取り組んできた。しかし、未着手区間の整備や、持続可能な維持管理を続けなければ、今の森は壊れていく心配がある。そこで、次世代にしっかりと伝えていける「ふるさとの森・生き物たちの楽園」を、多くの方々と創り上げていきたいと**クラウドファンディング**を開始。

3 月 27 日にスタートし、2 カ月後の最終日 5 月 28 日までに集まった支援総額は 3,626,000 円（目標金額の 73％）で、その支援者は、140 人にもなった。多くのご協力に対して心より感謝するとともに、今後 2 年間の松毛川での森づくり活動の資金に充当させていただく予定である。

ふるさと三島人物伝 34

むずかしいことをやさしく

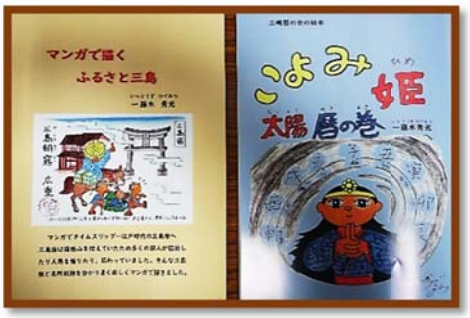
三嶋暦の会副会長　一藤木（いっとうぎ） 秀光（ひでみつ）さん

（三島市南二日町在住）

昭和 26（1951）年 6 月、三島市二日町通り 3 丁目（現南二日町）で生まれる。祖父は伊豆タクシーの創業者、父は富士急百貨店の社長だった。三島市立東小、三島市立南中に通った。小学校時代は優等生で、ヴァイオリンを習い、クラシック音楽が好きだった。中学生になったら、成績はガタ落ち、夜な夜なマンガを描いていた。毎晩遅くまで勉強していると思っていた親は、怒ってマンガを没収、以後一切マンガは禁止された。日大三島高校、日本大学法学部を卒業し、昭和 49（1974）年、富士急行株式会社に入社。企画や営業を担当。富士急ハイランドのジェットコースターやアトラクション、日本ランド（現ぐりんぱ）やイエティスキー場の企画に携わった。

熱海の初島バケーションランド「ひょっこりひょうたん島テーマパーク計画」を提案し、推進したが計画は頓挫した。しかし、いつか必ず実行したいと思っていた。その思いが通じたのは、平成 16（2004）年 4 月、沼津市役所の有志職員が立ち上げた「沼津彩生コミュニティー研究会」の一員として、西浦地区を視察した時だった。「ひょうたん島が漂着している」と牛臥山を見て衝撃が走った。牛臥山をひょうたん島に見立てて活用することを提案すると、研究会メンバーから大賛同された。平成 17（2005）年 1 月「沼津ひょうたん島プロジェクト」を立ち上げ、代表になった。2 月からコーストＦＭで「ひょうたん島情報」の放送を開始、14 年間、番組を担当した。皆からガバチョ大統領と呼ばれた。ドン・ガバチョの人形の生みの親、片岡昌さんも公認の愛称だった。牛臥山は「ひょうたん島」として全国に知れ渡り、ＮＨＫ「ひょっこりひょうたん島」のディレクター武井博さんはじめ中山千夏さんや前川陽子さんなど、ひょうたん島関係者で知らない人はいないほど知名度を上げた。

その後、沼津駅前の商業施設「イーラ de」の総支配人を 7 年間勤め、平成 28（2016）年 65 歳で定年退職した。次の活動の場は、ふるさと三島と決めていたので、すぐに「三島市ふるさとガイドの会」「三島宗祇法師の会」「三嶋暦の会」に入会した。



三島市ふるさとガイドの会で案内している時、昔の絵を見せて説明したが、「よく分からない」というので、マンガを描いて説明してみようと思った。マンガは分かり易いと好評だった。その時、中学時代のマンガ少年が復活した。それからは、三島の歴史や文化、古い写真や絵地図を調べ、歩いて自分の目で確かめてマンガで表わした。そのマンガを使って三島のガイドをし、小学校の授業や市民活動団体等の講演依頼も受けた。令和 2（2020）年 7 月、静岡県地学会東部支部主催の「三島宿のジオと歴史～写真とマンガで見る～」にマンガを出展、9 月に『マンガで描くふるさと三島』を出版、12 月には、三嶋暦師の館にパネル展示していた『こよみ姫』の絵本を出版した。続編の依頼もあり、現在制作中。

座右の銘は、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをゆかいに、ゆかいなことをまじめに」（ひょっこりひょうたん島の作者・井上ひさし）である。「ひょっこりひょうたん島」には様々な意味が込められている。多彩なキャラクターの人物の登場は、人はいろいろな生き方をしていいが、協力して生きていかなければならないという共生のメッセージ、困難に出遭っても、知恵を出し合い、くじけずに進んでいこうという希望のメッセージ、泣くのはいやだ笑っちゃおう♪歌うと元気になるテーマソングなどなど、たくさんある。

定年後はロスタイムという人が多いが、定年はハーフタイム、後半戦のスタートだと思っている。「やさしい言葉で哲学を語れ」という井上ひさしの言葉を胸に、好きなマンガを描いていきたい。

幕末から明治にかけて活躍

小浜池に象徴される三島の水源を思いつつ

政治家・教育家　　山口（やまぐち） 余一（よいち）

山口余一は、天保 13（1842）年、山口丈助の長男として三島宿大中島（現在の三島市本町）に生まれた。幼い頃から学問を好んで、福井雪水の「千之塾（せんしじゅく）」に入り学業に励んだ。雪水門下の逸材と言われる人物であった。詩文や書に優れており、自身も多くの若者を指導した。敢えて塾は開かなかったが、育てた若者は千人にも及んだという。書については能書家として知られており、三嶋大社境内の日清戦争祝捷碑（しゅくしょうひ）、蛭が島公園にある秋山富南の碑など、多くの石碑に書した文字が残されている。

▲日清戦争祝捷碑（三嶋大社境内）

文久 3（1863）年、江川英武が農兵所を設置すると、余一は、慶応元（1865）年に発足した農兵隊の農兵世話向に任命された。これらの関わりから、韮山講習所教員となり、のち訓導、そして韮山中学校長となった。また、明治 9（1876）年には静岡県第 8 大区長（大区の範囲はだいたい君沢郡の全域）を命ぜられ、次いで明治 12（1879）年に大区を改めて郡役所が置かれることになり、君沢田方郡書記となった。（この時韮山中学校長兼務）

このころ伊豆国の全町村は合議して明治 15 年に伊豆町村連合会を結成し、学校資金・勧業資金・病院の経営その他の事業を行い、人民総代 4 人がその重要な役員であった。余一は、明治 19（1886）年人民総代となり、明治 24（1891）年まで 6 年にわたって地方自治発展のために貢献した。

その人民総代時代のものと思われる資料の一つとして、小松宮彰仁親王が現在の楽寿園の地に別邸を建てる計画が進んでいる時期に、小浜池のすぐ南側の土地を宮家が購入することに対する懸念と代案を記したものがある。この中で余一は、「この地に別邸が立つことは三島の町の繁栄につながり歓迎すべきだが、町にとって重要な水源地をたとえ宮家といえども一個人が所有するのは後のことを考えて不安である。宮家は山紫水明に優れた風景を求めているのであり、事業を興そうと考えているわけではない。であるならば、この土地は町の共有地とし宮家には無償または有償で使用してもらうのがよいだろう」と述べている。この資料には、余一の民政に対する配慮が表れている。

余一は、慎み深く厳格でありながら情愛に富む性格で、師を敬する思いは厚く、師雪水の家に出入りし師の慰安を怠らなかったという。安政元（1854）年震災により雪水の家が焼失すると、資金を集めて家を復興した。また、雪水が晩年不遇に陥ると、同門の士と共に師を扶養し、師が亡くなると葬儀から建碑まで一切の面倒を見たという。さらにその後明治 16（1883）年には師雪水の遺稿集「雪翁遺草（せつおういそう）」を完成させた。

地域の発展と教育に尽力した余一は、明治 43（1910）年病により亡くなった。享年 69。

参考資料：三島市誌（中巻）、「歴史の小箱 N0288」、広報みしま（ふるさとの人物ゆかりの地１２）、
韮山高校 120 周年記念誌

Smile スマイル

桜川とともに

桜川を愛する会
【寄稿】　河田 京子さん

長野県の豪雪地帯に生まれ育ち、結婚により三島市に移り住むこととなった。富士山が見え、緑豊富な白滝公園に川縁まで水が溢れる桜川の風景が気に入り、川沿いの大宮町（旧芝町）に居を構えた。家事と子育てに追われた。

桜川は 1970 年代になると水量が減り、ごみやヘドロが目立つようになった。近所の故山田喜作さんは定年退職を機に、桜川の清掃を始めた。毎朝川の中で黙々と掃除をする姿に頭が下がる思いだった。長年の活動から、山田さんは三島市長の表彰を受け、隣組の皆で喜んだ。しかし、掃除が途絶えると、またごみが目立つようになって、心を痛めた。

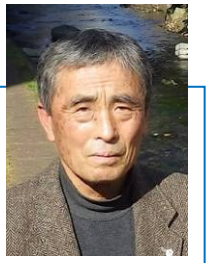
親しい友人の兄・故中西康徳前会長に誘われて、きれいな川に戻したい気持ちを行動に移そうと思い、入会した。当時は、掃除中に川へ煙草の吸殻を投げ捨てる人がいて、愕然とした。社会の風潮や活動の効果により、白滝公園周辺のごみは減った。

月に１度の活動は、楽しい交流の場であり、励みになっている。三島市内のあちらこちらから来る方々の“桜川を愛する心“に突き動かされ、隣組の皆に入会を勧めた。全世帯が快く賛同してくれて、今も有り難く思っている。最近は会員の石井真人さんのＳＮＳを見て活動を知った方々が加わり、幅広い世代の集まりになり、とても心強く感じている。

6 人姉妹の次女で、コロナ禍以前は春と秋に姉妹会を行っていた。末妹の勧めで姉妹全員がスマートフォンに変え、メールやＬＩＮＥに挑戦している。健康に良いと友人に勧められ、10 年以上自彊術を続けている。趣味は茶道と手芸。茶道は月に２回の稽古に行き、マイペースで楽しんでいる。昔から針仕事が好きで、吊るし雛を作っている。一番の楽しみは、陸上をしている孫の応援。現在は、無観客試合ばかりで応援に行けないことが口惜しい。

座右の銘は「あなたの笑顔が私の幸せ」、薬師寺執事長・大谷鉄獎の言葉。

中郷で稲作に携わり思うこと



中郷用水土地改良区前理事長
【寄稿】　白井 幸太郎さん

私はかつての田方郡中郷村で生まれ育ちました。そのころの中郷は、田園地帯が広がり、稲作農家が多く、私も両親の元で農業の基本を学びました。少年時代は、米や麦、露地イチゴなどを栽培して生活していました。

また、中郷は自然豊かな村で、小川にはナマズやフナ、ウナギなどがおり、楽しい日々を過ごしていました。麦畑にはヒバリが、春霞の空高く舞い、細やかなさえずりが聞こえると本当にうれしいものでした。ヒバリはさえずりながら５分から８分も大空をただよい、流れ、風のない晴天の日にさえずるので「日晴る」がヒバリになったと聞きました。もう一度空高くさえずるヒバリの声を聴きたいと思い、中郷にヒバリが復活することを今でも願う日々です。

中郷では、昔から稲作中心の農業でしたが、時代の変化でビニールハウスや野菜栽培などが多くなりました。稲作農家も、試行錯誤を繰り返す中で、米作りに対する考え方に少しずれが生じてきたように思います。

今、中郷では「愛知のかおり」が主品種となっていますが、米に対する品種改良が進み、地域ブランドの開発や、味や地域特性をアピールした米作りへと変化してきています。私も数年前から自分自身で種を購入し、試験栽培をしてきました。特に、三島市民に中郷のブランド米をと、「恋の予感」を３年前から農協と連携して栽培し、結果的に非常においしい米だと評価していただきました（今でも数軒が栽培していると思います。）。また、三島の遺伝学研究所の野生イネの栽培も手伝い、７年間勉強させてもらいました。

また、中郷では以前から水不足が問題になっていました。現在、県東部農林事務所と連携して、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用し、スマートフォンで水田の水管理を行うシステムを試験導入しています。これにより、効率的な水利用ができるだけでなく、水管理作業を省力化することができます。今後はこうしたＩＣＴを活用した管理システムが農業で重要視されていくと思います。

パッションNo. 40　地域の伝統行事を継承「腰切不動尊大祭」

腰切不動尊では、毎年、５月の大祭、９月と１月の例祭が開催される。かつては「田町のお不動さん」として親しまれていたが、管理がなかなか難しくなり、平成 11（1999）年から、ＧＷ三島では、地域住民等と共に例大祭を執り行っている。

今年は、５月 29 日に「第 22 回 腰切不動尊大祭」を実施。10：00 から田村和幸さんを中心に皆で御堂の内外を清掃し、新しい紅白の「鈴の緒」（青木峯子さんの手作り）に交換した。

小松幸子理事長の挨拶後、渡辺豊博専務理事が腰切不動尊の歴史と経過を説明。その後、法要（龍澤寺の僧侶）。昨年同様、コロナ禍なので規模を縮小し、田町地区のシャギリ奉納や腰切不動尊の紙芝居等は行わなかったが、皆で平穏や健康を祈った。早く以前のような例大祭が開催できることを望んでいる。

GW三島の活動記録 2021年2月1日－2021年5月31日

月	日	曜	事業名	内容	場所	人数
2	6	土	松毛川ワンデイチャレンジ	植樹地の下草刈り、竹林伐採･チップ化	松毛川	8
	13	土	松毛川ワンデイチャレンジ	植樹地の下草刈り、竹林伐採･野鳥観察	松毛川	12
	20	土	松毛川ワンデイチャレンジ	植樹地の下草刈り、竹林伐採	松毛川	6
	23	土	富士山湧水探検隊	湧水地巡り，湧水調査実習	富士山東麓	18
			富士山湧水探検隊	湧水地巡り，樹海散策	富士山北麓	27
3	6	土	松毛川ワンデイチャレンジ	植樹地の下草刈り、竹林伐採･チップ化	松毛川	6
			富士山湧水探検隊	湧水地巡り，湧水調査実習	富士山西麓	27
	9	火	「中部の未来創造対象」表彰式	表彰式	静岡市内	4
	11	木	雷井戸看板設置	新規看板設置	雷井戸	5
	12	金	静岡県知事・表敬訪問	受賞報告	静岡県庁	8
	20	土	松毛川千年の森自然観察会	野鳥観察、植物観察	松毛川	11
			富士山湧水探検隊	湧水地巡り，湧水調査実習	富士山南麓	24
	25	木	三島市長表敬訪問	受賞報告	三島市役所	9
	27	土	松毛川千年の森シンポジウム	シンポジウム、意見交換	三島市民生涯学習センター	50
4	10	土	鎧坂ミニ公園･桜川川端ワンデイチャレン	草刈り、樹木の剪定	鎧坂ミニ公園・桜川川端	5
	24	土	竹の子掘り体験	親子で楽しむ「春の竹の子掘り体験」	市の山竹林	35
			境川・清住緑地ワンデイチャレン	湧水池清掃、三島梅花藻の手入れ・移植	境川・清住緑地	12
5	8	土	松毛川ワンデイチャレンジ	三島桜の里整備	松毛川	6
	15	土	松毛川ワンデイチャレンジ	野鳥観察小屋整備	松毛川	5
			境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	湧水池清掃、三島梅花藻の手入れ・移植	境川・清住緑地	10
	22	土	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	湧水池清掃、三島梅花藻の手入れ・移植	境川・清住緑地	6
	29	土	腰切不動尊大祭	御堂の清掃、読経、シャギリ奉納	腰切不動尊	16

〈源兵衛川環境出前講座〉2/9 徳倉小 12 名、4/23～24 静岡県立下田高校南伊豆分校 19 名、4/26 甲賀市立城山中学校 30 名

〈定例作業〉★三島梅花藻の里 18 回　★源兵衛川 4 回　★鏡池ミニ公園 4 回　★桜川 4 回　★宮さんの川 8 回　★境川・清住緑地愛護会 4 回　★雷井戸 4 回　★沢地グローバルガーデン 4 回

〈定例会議〉★編集会議 8 回

〈募金活動〉★東日本大震災、ネパール地震、熊本地震、大阪北部地震、松毛川の森を守る募金　西日本豪雨災害支援募金　随時

〈署名活動〉★三島駅南口「水の都・三島」を財政破綻と魅力破壊から守る署名活動　随時

視察来訪者記録 R3.2.1～R3.5.31

月	日	視察団体	数	地域
5	1	日本建築学会	4	東京

日本建築学会視察とヒアリング

5月1日「日本建築学会・まちづくり若手奨励特別研究委員会」の委員4名(日本大学・大阪市立大学・東京大学・福島大学)がGW三島の視察やヒアリング調査に訪れた。

視察案内は小松幸子理事長が行い、ヒアリングは渡辺豊博専務理事が対応した。

質問事項は、①三島市内での湧水保全活動のきっかけと活動展開②組織の運営体制③地域の抱える課題④三島市内の地域課題の解決に向けた取り組みや方策など。若い研究者の質問は鋭かった。

竹の子掘り体験開催

4月24日、三島市「市の山区公民館」近くの竹林で竹の子掘り体験を開催。好天で初夏のような日差しの中、皆さん楽しそう。子供たちの歓声が山に響いていた。竹林の中は涼しく、作業するにはベスト。皆、竹の子掘りに熱中していた。やがて「採れたー!!」の声。嬉しそうで、見ている者もほっこりとした気持ちになった。

竹の子掘りは竹林の竹を一定に保つ間伐でもあるので、とても大事な作業。「遊水匠の会」の皆様のご指導にも感謝。GW三島では、家族で楽しめる農業体験を通じて皆さんに自然の素晴らしさを伝えている。

今後も6月5日（土）に田植え体験を開催するなど、様々なイベントを企画。

令和3年度の源兵衛川のゲンジボタル

源兵衛川でゲンジボタルが飛翔中。今年は、例年より早く、昨年よりも1日早い4月28日に初観察。GW三島のインストラクター・山口東司さんが、現地で飛翔数の調査を行っている。5月14日は41匹が観察され、4月28日から5月14日までの延べ観察数は309匹。例年、5月下旬にピークを迎える。

「鎧坂（よろいざか）ミニ公園」ワンデイチャレンジ

三島市文教町の「鎧坂ミニ公園」は、約130㎡の憩いの場。1993年、ゴミ捨て場化していた空き地を三島青年会議所中心に、GW三島が調整役となり、町内会や子供会、老人会が、行政と地元企業の協力も得て地域総参加により整備再生したもの。毎月第2土曜日に定期的な整備作業を行っている。

文教町の地域住民やボランティアの皆さんに、長く愛着をもって維持管理を担っていただいているが、近年の高齢化と人手不足により維持管理に苦労している。4月10日には、関係者で草刈りや樹木の剪定を行った。

「トヨタ未来都市」の着工について

壮大な都市計画の大規模開発により、地下水の汚濁、水質悪化、地下水枯渇などの環境への影響に懸念があり問題点を監視・確認していく必要がある。計画内容について地域住民や行政への事前説明を含め情報公開が望まれる。

トヨタ自動車に対して「地下水保全の意見書・提言書」提出の市民活動を展開していく予定である。

雷井戸に看板を設置

3月11日、「三島梅花藻の里」の定例作業後に雷井戸の清掃活動を行い、宣伝用の看板を設置した。

見学者に、雷井戸の由来や市民トラスト運動により確保できたことなどを説明できた。

FM みしま・かんなみ ボイスキューで紹介

2 月 18 日、「グラウンドワーク三島アクショントーク」の録音に出演。ＧＷ三島のボランタリーニュース 73 号のホットな内容やＧＷ三島の活動について紹介し、街を築く「人」の大切さを確認。

上写真：左よりパーソナリティーの渡辺豊博ＧＷ三島専務理事と小坂真智子さん、ＧＷ三島編集室からラジオ出演した小松幸子ＧＷ三島理事長と山崎多紀子ＧＷ三島編集委員

「松毛川千年の森づくり」ワンデイチャレンジ

松毛川は、狩野川流域に唯一残された旧河川敷の三日月形の止水域で両岸に貴重な樹林帯、河畔林が広がっている。しかし、近年、放置竹林の繁茂による樹木の枯死や倒木が多く見られる。ＧＷ三島は、松毛川の自然を守り再生する「千年の森づくり」に取り組み、18 年間活動を続けている。

第４回　２月 ６日　間伐、搬出した竹や枝を粉砕機でチップ化

第５回　２月 13 日　放置竹林の伐採、下草刈り樹木の間伐、剪定、清掃
専門家のガイドによる「野鳥観察会」の実施

第６回　２月 20 日　最上流域の放置竹林の伐採、樹木の剪定　清掃

第７回　３月 ６日　左岸に残る放置竹林の伐採、チップ化作業、ごみ拾い

※今後も作業は続きますので、ご参加ください。

松毛川自然観察会

３月 20 日、ＧＷ三島は、「松毛川千年の森・自然観察会」を実施。滝道雄・日本野鳥の会東富士副代表と菅原久夫・富士山自然誌研究会会長の ２ 人の講師と共に松毛川の森を歩き、鳥や植物、巨木の観察をした。

参加者は、鳥の鳴き声に耳を澄ませ、芽吹きはじめた木々に目を見張り、「生き物たちの楽園」の不思議と魅力に触れ、充実した時間を過ごした。

富士山湧水探検隊

富士山周辺と三島市内に点在する湧水地を巡り、水質調査を行った。

第１回　２月 20 日　13：00～17；00 富士山東麓：静岡県裾野市（不動湧水、景ガ島渓谷）

第２回　２月 23 日　10：00～16：00 富士山北麓：山梨県富士五湖町（富士五湖周辺、西湖）
青木ヶ原樹海を散策し、自然環境や動植物の生態を学んだ。

第３回　３月　６日　13：00～17：00 富士山西麓：静岡県富士市（陣馬の滝）
静岡県富士宮市（白糸の滝、富士山本宮浅間大社　湧玉池）

第４回　３月 20 日　13：00～16：00 富士山南麓：静岡県三島市（楽寿園、源兵衛川、菰池公園、白滝公園、雷井戸、腰切井戸）、静岡県駿東郡清水町（境川・清住緑地）

「三島アメニティ大百科・別冊付録 No.5」「順天堂大学保健看護学部」

順天堂大学は、天保 9（1838）年、佐藤泰然が江戸薬研堀（現在の東京都中央区東日本橋２丁目）に創立した蘭方医学塾「和田塾」が起源で、現在は６学部からなる私立の健康総合大学。学是は「仁」。

平成 22（2010）年４月、同大学の４番目となる保健看護学部看護学科が開設された。キャンパスはＪＲ三島駅から北東に約 600ｍに位置し、５階建ての校舎に実習室、演習室、図書室（学術メディアセンター）、マルチメディア教室、学食などがある。実習室には最新の設備や機器が整えられている。座学や実習で学んだことをより深め、看護能力の修得をするために、１年次から臨地実習が組み入れられている。伊豆の国市の順天堂大学医学部附属静岡病院をはじめ、静岡県立静岡がんセンターなど近隣の公私立病院のほかに、保育園、介護老人福祉施設、訪問看護ステーション、保健所などでさまざまな実践を積み、看護師と保健師の国家試験受験資格が与えられる。卒業生の約７割は順天堂大学医学部附属の病院に就職し、その他の病院へ就職する者、保健師、大学院進学の道を選ぶ者など活躍の場はそれぞれ。

三島キャンパスには１学年 120 名、計約 500 名が在籍している。秋に開催される「順咲祭」（大学祭）、運動系・文科系のクラブや同好会の活動は勉学の合間の息抜きや交流を深める場。県内外から集った学生が充実したキャンパスライフを送っている。

三島市内の写真集

撮 影 者：やまぼうし
撮影場所：三島二日町駅～大場駅間
タイトル：修善寺行き特急「踊り子」
ひとこと：修善寺駅発着の特急「踊り子」は、今年3月13日から車両をリニューアル。4月22日、快晴。富士山もくっきりと見えていたので撮影。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて、Eメールに添付し、GW三島事務局まで。
Eメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます。募金の趣旨を生かして、大切に使わせていただきます。

＊西日本豪雨災害支援募金
＊松毛川の森を守る募金
＊大阪北部地震支援募金
＊熊本地震支援募金
＊ネパール地震支援募金
＊東日本大震災支援募金

修学旅行としてGW三島へ
静岡県立下田高校南伊豆分校３年生
滋賀県甲賀市立城山中学校３年生

4月22日～23日、下田高校南伊豆分校の3年生が、GW三島を訪問。22日の夜は、宿泊ホテルで渡辺豊博専務理事の講義を受け、23日は、GW三島インストラクター（小松幸子、山口東司、山﨑守博）の案内で、白滝公園から三嶋大社まで、GW三島の水辺を中心とした実践地を視察。貴重な体験の修学旅行となったようだ。

4月26日には、滋賀県甲賀市立城山中学校3年生がGW三島を訪れ、修学旅行の一環として源兵衛川中心の水辺体験をした。

飛び出す編集室

5月14日、編集会議後に源兵衛川に設置してあるGW三島の名称入りの看板を磨いた。英国GWの重鎮といえるロビン・ヘンショウさんが来日の折、磨いてくださった看板で、白さが蘇った。

グラウンドワーク三島編集室（50音順）

ボランタリーニュース（VN）74号の編集ほか

浅井 一哉　河田 惠美子　岸野 和子　城所 徂帝
小松 幸子　佐々木 覚　相馬 幸永子　前田 充子
水野 幾子　山﨑 多紀子　山田 勝造

GW三島事務局担当：美和 将弘

大場里山自然水路
環境再生ワンデイチャレンジ

1月30日、大場里山自然水路環境再生ワンデイチャレンジを実施。湧水地と周辺の草刈り・ゴミ拾いを行い、美しい水辺環境が整った。この地は伊豆縦貫自動車道の建設に伴い、多くの魚が生息する里山の一部が失われることになったため、GW三島や地元の提案で国土交通省が農業用水路・水辺環境を再整備してくれた場所。三島南高校の隣にある。

GW三島では定期的に整備しており、今後も提案者として維持管理に努めていく。

GW 三島による
東日本大震災支援活動

GW三島は、東日本大震災支援活動として「子どもを元気に富士山プロジェクト」を実施してきた。具体的には、宮城県石巻市や福島県いわき市、川俣町の被災児童や家族を、伊豆長岡温泉、修善寺温泉、三島の水辺、富士山などに招待した。

3年半にわたる支援活動を通して参加者は延べ2700人、心に元気の風を送れるのは、人の優しさと思いやりの心だと実感した。源兵衛川や富士山の豊かな水辺自然環境は、疲れや傷ついた心と体を癒す力があることも感じた。源兵衛川の清流を市民の努力で蘇らせたように、諦めず愚直に取組む重要性も感じた。

歓声をあげて遊ぶ被災児童、パワー全開で富士登山をした被災孤児、聞き役に徹した交流会、夜中に石巻市まで何度も迎えに行った日々などが走馬燈のように思い出される。機会があれば、縁ある人々をまた招待できるよう企画したい。